

施策評価シート(平成25年度評価実施)	担当部課名	産業環境部 環境清掃課	関連部課名	
基本目標	美しい自然を未来につなぐまちづくり【環境・生活基盤】			
施策名	循環型社会形成			
環境負荷の少ない持続可能な生活環境づくりにむけて、ごみの減量や資源のリサイクル、資源・エネルギー循環などを通じて資源循環型社会の構築を進めるとともに、ごみ処理施設やし尿処理施設の適正な維持管理・運営を通じて、安全かつ安定的な廃棄物処理を推進します。				
施策が目指す蒲郡市の将来の姿 <ul style="list-style-type: none"> <li>●ごみの減量や資源の効率的な活用が進み、環境負荷の少ない、快適な生活環境になっています。</li> <li>●市民、事業者、行政が一体となった環境意識の高いまちづくりができています。</li> </ul>				

### ◆具体化した施策の取り組み実績

#### 1 資源循環型社会の構築

項目	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度計画
ごみ減量施策	プラスチック製容器包装の収集	プラスチック製容器包装の収集	プラスチック製容器包装の収集
5R行動	5R行動の推進	5R行動の推進	5R行動の推進
公共施設におけるエネルギーの有効活用	ユトリーナ蒲郡の委託管理	ユトリーナ蒲郡の委託管理	ユトリーナ蒲郡の委託管理

#### 2 リサイクルの促進と地域コミュニティの活性化

項目	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度計画
リサイクル推進のための施設整備	リサイクルプラザの管理	リサイクルプラザの管理	リサイクルプラザの管理
クリーンサポーター制度の充実	クリーンサポーター 296人	クリーンサポーター 256人	クリーンサポーター 299人
資源回収団体育成奨励金事業	36団体 7,531,700円	36団体 8,427,500円	35団体 7,500,000円

#### 3 適正な廃棄物処理

項目	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度計画
一色処分場の管理	一色処分場の適正管理	一色処分場の適正管理	一色処分場の適正管理
事業系廃棄物の適正処理	事業系廃棄物の適正処理の周知	事業系廃棄物の適正処理の周知	事業系廃棄物の適正処理の周知
資源物売払数量及び収入	4,641,722kg 89,326,677円	4,220,788kg 59,421,383円	

◆評価指標

指標名	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	将来目標
可燃ごみの収集量	目標値		15,000トン	15,000トン	15,000トン
	実績値	14,717トン	14,934トン		平成32年度
プラスチック製容器包装の収集	目標値		400,000kg	400,000kg	400,000kg
	実績値	372,011kg	323,480kg		平成32年度
資源物売払数量及び収入	目標値		—	—	—
	実績値	4,641,722kg 89,326,677円	4,220,788kg 59,421,383円		平成32年度

◆指標の説明・考え方

指標名	説明・考え方
可燃ごみの収集量	蒲郡市内の可燃ごみ委託収集量年間統計
プラスチック製容器包装の収集	プラ容器の年間収集量
資源物売払数量及び収入	市民の分別意識を高め、資源化して売払い収入を得る。

◆指標の分析

◆プラスチック製容器包装の資源物としての分別収集を平成19年10月から一部地域で開始して以降、プラスチック製容器包装の収集量が増加する中、可燃ごみの収集量は減少してきた。しかし、平成24年度においては、プラスチック製容器包装の収集量が減少する一方で、可燃ごみの収集量が微増している。  
 ◆資源物の収集量については大きな増減はないものの、売払い収入は資源物の引き取り単価によって変動している。

◆今後の方針

◆プラスチック製容器包装の分別回収の実施により、可燃ごみの減量化が図られるなど一定の成果を得た。しかし、平成24年度は可燃ごみの収集量が微増している状況もあり、今後は大幅な減量は難しく、可燃ごみ収集量の高止まりが懸念される。また、回収したプラ容器のうち汚れがあることにより再利用に回せず焼却となり、再商品化に至らない比率が高い状況にある。  
 ◆その他の資源物についても分別はしっかりと行い再利用率を上げるのが課題。

◆プラスチック製容器包装をせっかく回収しても汚れがあるため再利用できずに焼却している割合が多いため、今後はこれを改善していきたい。汚れをとることが難しい場合は可燃ごみとして捨ててもらうなど、分別を正確にやってもらえるよう呼びかけていく。  
 ◆その他の資源物についても分別を正確にするよう呼びかけていく。  
 ◆有料化を含めたごみ減量化施策を検討する。

課長評価	構成事業の進捗状況	B: おおむね計画どおり進行している。
	施策の進め方	B: 一部見直しが必要である。
	コメント	可燃ごみ・不燃ごみを減らしていくことは、施設の延命化にもつながり、市としても大きく負担を減らすことができる。ただし、現状以上に分別を細かくすることは、市民に負担がかかるので、今後は、現在の分別の仕方の徹底を図る啓発に努める必要がある。また、ごみの有料化の検討が必要となっている。

部長評価	施策の進捗状況	B: 目指す将来像実現に向けておおむね計画どおり順調に進行している。
	コメント	焼却施設や処分場等の延命化を図るには、ごみ減量化が不可欠である。そのためには、ごみの減量や資源の再利用に対する市民の意識を向上させ、中途半端な分別にならないようにする必要がある。また、今後は新たな資源化の充実施策が求められている。

施策に属する事務事業一覧

総合計画	所管課	番号	事業名	人件費を除く事業費(千円)	人件費(千円)	人工	総合評価	事業の種類別	市長マニフェスト	実施計画
4-5	環境清掃課	296	生し尿・浄化槽汚泥適正処理事業(し尿くみ取り・清幸園維持管理)	86,928	11,502	2.45	A	ウ	—	×
4-5	環境清掃課	297	資源回収団体育成奨励金交付事業	8,428	1,311	0.35	B	オ	—	○
4-5	環境清掃課	298	家庭系一般廃棄物等収集運搬事業	237,459	15,731	3.60	A	ア	1	○
4-5	環境清掃課	299	一般廃棄物等中間処理事業	832,358	62,204	13.15	A	ア	1	○
4-5	環境清掃課	300	最終処分場管理運営事業	45,155	15,297	2.85	A	ア	1	○
4-5	環境清掃課	301	クリーンセンター等一般管理事業	3,520	5,670	0.90	A	ア	1	○